

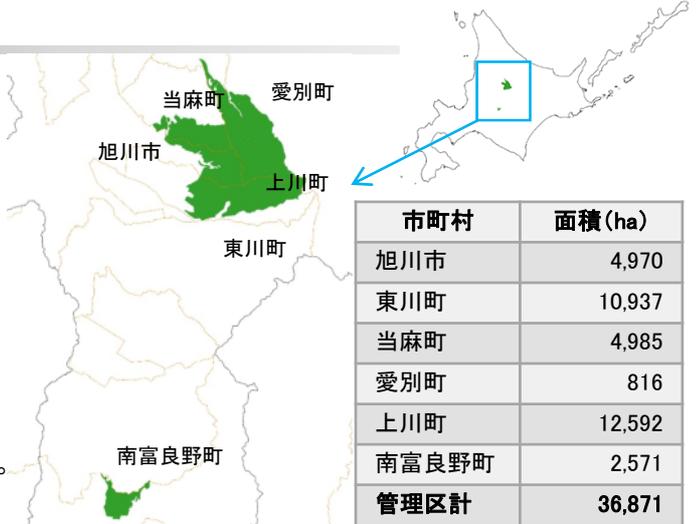


北海道有林野 整備管理計画（上川南部管理区）の概要



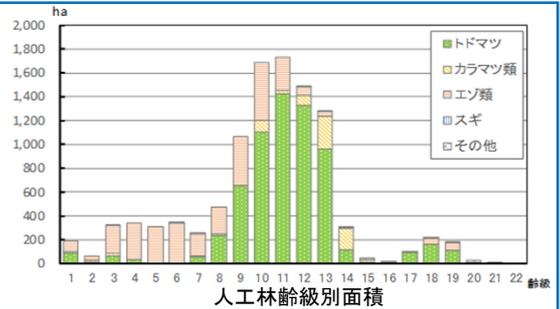
管理区の概要

- ・当管理区は、北海道の中央部に位置し、上川総合振興局管内南部の旭川市、東川町、当麻町、愛別町、上川町、南富良野町の1市5町に所在しており、大雪山地域と金山地域に分かれています。
- ・森林のほぼ全域が保安林に指定されているほか（保安林率99%）、一部は大雪山国立公園に指定されており（指定面積7,381ha）、水源かん養・国土保全、保健休養など森林の公益的機能の高度発揮の上で重要な役割を担っています。
- ・森林面積は約37千haであり、大雪山地域の天然林の大部分はトドマツ・エゾマツ等の針葉樹と、シナノキ・カバ類等の広葉樹が主体の針広混交林、金山地域の天然林の多くは、ウダイカンバやダケカンバ・ミズナラ等の広葉樹林となっています。人工林面積については約10.5千haであり、うち6割がトドマツとなっています。



多様で先導的な森林づくりに係る取組

- ・当管理区では、11齢級以上の利用期を迎えるトドマツ人工林の割合が52%と高齢化しており、また、齢級の偏りも見られることから、高齢級林分において積極的に主伐・再造林（単層林施業）を進め齢級の平準化を図るとともに、間伐とあわせて林業事業者への計画的・安定的な木材供給を実施します。
- ・天然林整備については、「多様な樹種や樹齢で構成され、多段階な樹冠層からなる連続的複層林で鳥や動物の餌等になる木も豊富な森林」を目指し、抜き伐りやかき起しを行うほか、施業後のモニタリングを実施します。



○目標の指標

【育成単層林・育成複層林・天然生林別面積(単位:ha)】

森林の区分に応じた適切な森林の整備や保全の実施により、多様な樹種や林齢からなる森林の育成を目指します。

区分	令和元年度	令和13年度
育成単層林	9,580	9,277
育成複層林	8,465	8,918
天然生林	18,826	18,676

○計画量

【伐採材積】

(単位:千m³)

【更新面積】

(単位:ha)

【路網開設】

(単位:km)

区分	前期	後期
主伐	104.1	96.3
間伐	167.8	157.9

区分	前期	後期
人工造林	367 (467)	367 (482)
天然更新	8 (53)	14 (92)

区分	前期	後期
林道	-	-
林業専用道	5.6	5.0

※括弧内の数値は区域面積

資源や技術力を活用した地域貢献に係る取組

- ・傾斜が緩やかな人工林伐採跡地における大型機械による地拵えの実施や、カラマツ植栽、列状間伐の推進による森林施業の低コスト化・省力化を図ります。
- ・機械の導入や雇用の確保に取り組む地域の林業事業者を育成するため、安定的かつ計画的な事業の発注に努めるほか、計画的な雇用の確保や設備投資等を促進するため、長期的かつ弾力的に立木販売する「長期安定供給販売(協定販売)」を実施します。
- ・道有林の木材を伐採し製材工場等に供給する事業者が、適期に適量の原木を製材工場等に供給できるよう、立木で販売することとし、地域の木材需給の動向を踏まえ、適切なロットで販売するよう努めます。
- ・上川管内を中心に、広葉樹資源を活用した地域産業振興への期待が高まっていることから、広葉樹資源の把握や育成に取組み、持続的な利用を図れるよう努めます。
- ・広葉樹伐採地において、林業事業者と連携して伐倒技術研修会や素材の品等格付けなどの研修会を実施し、若手職員の育成を図ります。
- ・木育マイスター等による森林体験学習や小中学校の林業現場見学等の場として、積極的にフィールドの提供を行います。



機械地拵え



銘木市(銅賞受賞の道有林材)

○目標の指標

【森林づくりに伴い産出される木材の量】

道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

48千m³/年

(平成29～令和2年度までの実績平均)



57千m³

(令和13年度)